

1. 授業の概要(ねらい)

人間には日々健康に生きるための仕組みが備わっている。しかしながら日常生活の中で、風邪をひいたり、生活習慣病になったり、ガンを発病したりするなど、病気になることがある。病気の治療には薬が用いられることがあるが、薬は思わぬ副作用を示すことがあるため、薬を利用するにあたって、患者も正しい知識を持つ必要がある。最近では、より効き目が高く、安全性も高い新しい薬剤が開発され、様々な病気が治療できるようになってきた。生活の医学Ⅱでは、主に生活習慣病や神経疾患など内的な要因による病気について、その原因の概略の解説、及び、どのように薬が作用するか最新の知見を含めて薬学的な視点から紹介する。また、身近な風邪薬やサプリメントなどについても解説し、薬に対する理解を深める。

2. 授業の到達目標

病気になる原因と、それを治療する薬剤の作用メカニズムなどについて理解を深め、実生活に役立てることを目標とする。また、ヒトや微生物などの生物の生きていく仕組みについて概略を理解する。

3. 成績評価の方法および基準

期末試験の成績を5割、講義毎の小テストの成績を5割とし、合計100点で評価を行う。欠席が4回を超える場合は、単位を付与することができない場合がある。小テスト、及び、期末試験はLMS上で全て実施する。

4. 教科書・参考文献

教科書

特定のテキストは使用しない。講義ごとにレジュメを配布する。

参考文献

薬がみえるvol.1~3 MEDIC MEDIA

黒山政一、香取祐介著 『はじめの一步は絵で学ぶ 薬理学 第2版』 じほう、2019

浦部晶夫、島田和幸、川合眞一(編集) 『今日の治療薬2019: 解説と便覧』 南江堂

5. 準備学習の内容

MELIC内の参考図書やweb検索などで、積極的に準備学習、復習をすることが望ましい。LMS上に連絡事項や資料も載せるので、随時確認すること。

6. その他履修上の注意事項

授業中の私語については厳禁とし、他の受講生の迷惑になる場合は退出を求めることがあります。また、新型コロナウイルスの状況に応じて講義内容を変更することがあります。なお、本講義はできる限りイラスト等を使って平易な表現を心がけているが、専門的な内容を含むことを予め承知頂きたい。

7. 授業内容

- | | | |
|--------|---------------|---|
| 【第1回】 | 講義の概要の紹介 | 薬の作用機序の概略(前期の復習) |
| 【第2回】 | 神経系に作用する薬 | 神経系総論 神経系の仕組みについて理解する |
| 【第3回】 | 神経系に作用する薬 | 認知症(アルツハイマー型認知症) 認知症の発症機序、治療薬の種類と作用について理解する |
| 【第4回】 | 神経系に作用する薬 | うつ病 うつ病の発症機序、治療薬の種類と作用について |
| 【第5回】 | 神経系に作用する薬 | 不眠症 不眠症の原因、及び治療薬の種類と作用について理解する |
| 【第6回】 | 生活習慣病 | 糖尿病 糖尿病の原因と症状、治療薬について理解する |
| 【第7回】 | 生活習慣病 | 脂質異常症(高脂血症) 脂質異常症の原因と症状、治療薬について理解する |
| 【第8回】 | 生活習慣病 | 高血圧 高血圧の原因と症状、治療薬について理解する |
| 【第9回】 | 血液系に作用する薬 | 血液概論及び止血薬 血液系の仕組み、及び止血薬の種類について理解する |
| 【第10回】 | 血液系に作用する薬 | 貧血 貧血の原因と症状、及び治療薬の種類について理解する |
| 【第11回】 | 血液系に作用する薬 | 抗血栓薬、血栓溶解薬(脳梗塞や心筋梗塞など) 血栓塞栓症の治療薬の種類について理解する |
| 【第12回】 | 痛み・炎症・熱に作用する薬 | 解熱鎮痛薬の作用機序について理解する |
| 【第13回】 | 総合感冒薬について | いわゆる風邪薬に配合されている薬について理解する
(オンライン講義の予定) |
| 【第14回】 | サプリメントについて | 栄養補助食品の種類と機能について理解する |
| 【第15回】 | 後期講義のまとめ | |